

第37回

高知市

都市美 デザイン賞

Kochi City
Scenery Design Award

こころ豊かな景観を創りだすために

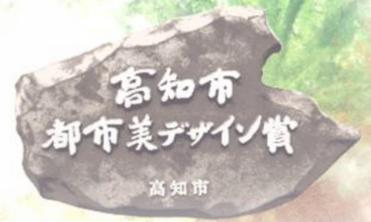
2021 受賞

Kochi City Scenery Design Award

都市美とは・・・

「都市美」というと、造形的に美しい街並みを想像しがちですが、私たちの心に豊かさを与えてくれる自然、人の心づかいとふれあいのある風景も「まちの美しさ」のひとつではないでしょうか。

建築物、街並み、みどりや水辺などの自然環境と歴史、文化、優しさ、親しみなどの快適さを地域に調和させて美しく親しまれる都市景観、個性的で魅力ある都市空間を「都市美」と定義し、それを創造し、再生し、守っていきたいと考えています。



～選考を終えて～

今年度における都市美デザイン賞の応募は26通あり、審査物件が14件であった。その内訳は、一般建築部門が8件、住宅建築部門が4件、テーマ部門が1件、街並み・まちづくり部門が1件である。

選考の方法は、今年度も新型コロナウイルスの影響で通常とは異なった。第一回審議会は、事務局から送付された資料を基に、委員が任意で現地調査を実施し、審査資料にコメントを記入して投票する、書面による開催。第二回審議会は、その投票結果を踏まえた対面での選考となった。この新方式により、別々の天候・時間帯に物件を見た委員の意見が活発に議論され、厚みのある審議となった。

21年ぶりに誕生した特賞物件が代表するように、新しい生活様式のマスク下で、息苦しさを感ずる市民が景観に求めたものは、「開放感」であった。心の閉塞感を打破し、一層の暑さ対策にもなる、「風を感じられるまちづくり」を求めている。具体的に物件で体現するならば、風を止めない高さ、風を通す広さ、風を感じられる緑、といったところであろう。その結果、高知の風土に合った景観を創出することができる、市民が肌で感じていることが良く分かる結果であった。

自薦他薦を問わない。「高知市に、こんな景観が広がればいいな。」と感じた物件を見かけたときには、記憶にとどめておいて応募していただきたい。高知市民みんなで、未来に誇れる「都市美」を創出できればと願っている。

高知市景観審議会 副会長 大倉 美知子

過去5年間の受賞一覧

実施回 (実施年)	受賞物件名
第32回 (2016)	織田歯科医院 高台の家 近森病院・近森リハビリテーション病院周辺の街並み
第33回 (2017)	高知県自治会館 静寂の家
第34回 (2018)	オーテピア
第35回 (2019)	福留開発新社屋
第36回 (2020)	百十四銀行高知支店 高知市役所新庁舎 No.33

特賞

街並み・まちづくり部門

高知県立大学・高知工科大学 永国寺キャンパス



●受賞者…高知県立大学校法人

高知市永国寺町

評「高知県立大学・高知工科大学 永国寺キャンパス」は、平成20年7月の県立大学改革プランに基づき、社会貢献をする「知の拠点」のキャンパスとして整備されることとなり、すべての建物を新築とするのではなく、一部は耐震補強やバリアフリー化することで整備が行われた。

学校や図書館が立ち並ぶ文教地区の3区画を跨ぐ広大な敷地には、広場を取り囲むように地域連携棟・体育館・学生会館・図書館棟・教育研究棟が配置されている。各々の敷地を塀で取り囲むことなく、キャンパスの中心を芝生の広場に整備したことで、緑あふれる都市空間が誕生したのである。

また、高知市が取り組んでいる「お城の見えるまちづくり」の適用区域に位置しており、この景観形成基準を順守したことで、高知城への眺望及び高知城からの眺望が確保され、格調高い景観色彩が形成されている。

このように、社会貢献を意識した総合的な計画により、魅力的な都市空間が創出されている点を高く評価し、特賞に選定した。県と大学だけでなく市民も協力して、市街地に誕生した開放的なキャンパスを大切に育てていくことを期待している。

入賞

一般建築部門

四国銀行一宮支店



- 建築主…株式会社四国銀行
- 設計者…フクヤ建設株式会社
- 施工者…フクヤ建設株式会社

高知市一宮

評「四国銀行一宮支店」は、県道沿いに立地しており、東隣には大規模小売店舗、南隣には戸建て住宅が並んでいる。

全国的にも珍しい木造平屋建ての銀行ということで、これからの人口規模や経済状況を考えると、地域の身の丈にあった建築規模となっている。一方ディテールは、地域の個性を活かし、実に凝ったデザインである。銀行のイメージカラーであるブルーを活かした外壁の落ち着いた色彩は、高知特有の暑さを軽減する寒色効果に加え、不安な気持ちを落ち着かせてくれる色彩心理効果を与えている。また、外壁に施されたタイルの土、ブラインドの和紙、植栽や石などの自然素材によって、呼吸しているかのように感じられる建物となっている。

これらのことから、利用者や周辺住民に親しまれ安心感を与える建物、また高知市に増えてもらいたい建物として入賞に選定した。

入賞

住宅建築部門

街にひらかれた家



- 設計者…有限会社勇工務店設計室
- 施工者…有限会社勇工務店

高知市

評「街にひらかれた家」は、幹線道路から少し入った住宅地にある。

隣地との境界には木塀を施し、道路側には門扉や塀を設けず、既製のカーポートや木造の車庫も設置しないことで、開放的で明るい印象となっている。伝統的な土佐しっくいとの木の外壁、瓦屋根には越屋根をデザインしている。また、掃き出しの窓の前にはテラスが設けられ、くつろぎの空間となっている。テラス前には日影をつくる立木が植えられるほか、適所に植栽が施され、建物の外壁と広がりのある空間と相まって、住宅地に落ち着きとうるおいを与える好例である。

最近、希薄になりがちな近隣住民との交流が図れる場所としてテラスが利用されている様子が垣間見え、個人住宅でありながら魅力的な都市空間が創出されているとして、入賞に選定した。